

ATSUBOTGT



ホームページ

〒649-7205
和歌山県橋本市高野口町名倉 8 7 9
TEL. 0736-42-3205

「今までにないモノを」

ATSUBOTGT

ありそうでなかった耐火・防炎性のある手袋

「燃る」技術にはわくわくする面白いモノが創れる可能性がある



林燃糸株式会社

はやしねんし 林撚糸株式会社

～撚糸の熱い思いがここに～

はじめに

これは近附と桐蔭がコラボしながら、インタビュー内容をまとめ、和歌山の企業をPRしようという取り組みである。2回の取材で分かった撚糸の魅力をどうぞ!



工程

オーダーの依頼と糸が送られてくる



糸を合わせる（合糸）



撚る（撚糸）



出荷
（商品加工は他の企業で）

加工できる糸にするまでが
林撚糸の仕事!!

撚糸って??

取材をする前の私達は、撚糸について全く知識がなかった。撚糸とは糸を束ねて強くすることだと調べて分かった。だが百聞は一見にしかず。林さんは私達に工場の様子とともにこう教えてくれた。「糸を強くするのはもちろんだけど、違う糸を合わせて違う特徴の糸にもできる。例えば伸びる糸と伸びない糸を束ねて伸びる糸にすることができる」と。撚糸の必要性とともに、撚糸の魅力を感じた瞬間だった。

撚糸によって生まれた素材は、服やカーテンなどの繊維製品に加工され、他にもニットや新幹線のシートなど私達の身近に撚糸は溢れている。それらを作り出すのが林撚糸株式会社の仕事である。

時を遡る

創業から90年続く林撚糸。会社の歴史を尋ねた。もともとは染め物の工場だったという。だが当時は戦争真っ只中、橋本に場所を移し、そこで撚糸を始めたのが会社の起源だそうだ。鉄鋼業が盛んになり、繊維産業が衰退した時代には繊維製品が売れなくなった時期があってとても大変だったようだ。しかしそのような苦難を乗り越えたからこそ、今の林撚糸があると私達は思う。



糸から糸だけど…

林さんが話の中で多く口に出していた言葉がある。「糸は糸だけど…」と。確かに撚糸という作業は新しいものを生み出すのではなく、既存のものに手を加えるという一見必要性を感じない作業と思うかもしれない。林さんは折り鶴の例をあげて説明をくれた。誰にどんな目的で折るかわからない折り鶴より、それが分かっている折り鶴の方がモチベーションが上がって取り組もうと思える。だから撚糸した糸でつくる製品に、喜んでくれる人がいるなら、たとえ変わらない糸だとしても無心に作業ができるというのだ。職人の人のためにという熱意を心から実感した。

これからの展望

林撚糸を一言でPRすると尋ねると、まず私達に会社で捧げているスローガンを教えてくれた。「人に寄り添う」だそうだ。とても素敵で温かい言葉だなと思った。具体的な例を挙げてくれた。家族や友達で楽しくバーベキューに来たときに、火の粉が飛んで火傷をすると不快な気持ちになるだろう。そのような日常のちょっとした悩みを解決することが、人の心を豊かにできると林さんは言う。撚糸で人々の笑顔をつくれることは会社にとってこれ以上嬉しいものはない。



さらに今、開発中のものがあると教えてくれた。糸というと伝統的で古臭いようなイメージが現代の社会では浸透している。だからこそ糸をIOTやITに活用するという事を考えているそうだ。詳しく聞くと、糸に電気が通るステンレスの繊維を使い生体情報を読み取ったり、義手に利用したりと、人間とロボットをつなぎ合わせたいと言う。そうして撚糸をもっと身近な存在にし、今の時代と共に歩んでいきたいのだと語る。

林撚糸をインタビューし作業の様子や実際に実物を見せてもらうことで、職人のものをつくるということに対する誇りに感心させられるばかりだった。工場の中まで案内していただきありがとうございました。

企業情報

企業名：林撚糸株式会社 住所：和歌山県橋本市高野口町名倉879番地
代表取締役：林 雄太 TEL：0736-42-3205
郵便番号：649-7205 ホームページ：<http://www.atsubougu.jp>
E-mail：hayashi-nenshi@tiara.ocn.ne.jp

取材・記事

桐蔭 古味山大智 近附 池田心陽
宮本あんみ 大福樹
吉田謙信 加納啓伍
永峰萌
前窪桃香
正木稟乃
御前伶介
八幡優斗